

(明治三十三年五月八日遞信省認可)

# 縣報

第九號

明治三十三年七月四日

# 和歌山縣

## ○縣令

○和歌山縣令第五十一號

炭疽熱發生ニ付左記ノ區域ヲ豫防線トシ牛馬羊豚ノ出入往來ヲ停止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十三年六月廿二日

一西牟婁郡上芳養村字西山

一圓

和歌山縣知事

小倉

久

○和歌山縣令第五十二號

移民保護法及外國旅券規則施行ニ關スル規定左ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治三十年十一月本縣令第七十五號同第七十六號ハ本規定施行ノ日ヨリ廢止ス

明治三十三年六月廿七日

和歌山縣知事

小倉

久

移民保護法及外國旅券規則施行ニ關スル規定

第一條 移民保護法施行細則第一條ニ定メラシタル勞働ヲ目的トシ外國ニ渡航セントスル

者ハ第一號及第二號ノ書式ニ依リ外國旅券下付願并外國渡航許可願書ニ戶籍ノ謄本ヲ添

ヘ當廳ニ差出スヘシ

第二條 移民保護法第三條ニ依リ外務大臣指定ノ地ニ渡航スル移民ノ保証人ハ二人ト定ム

其他ノ外國ニ渡航スル移民ハ一人ノ保証人ヲ要スルモノトス

但清韓兩國并露領西比利亞東部地方及薩哈連島へ渡航スル者ハ保証人ヲ要セサルモノトス

保証人ハ渡航ノ許可ヲ得ントスル者ト同一郡市内ニ住居シ左ノ資格ニ該當スル者トス但一人ニシテ移民三人以上ノ保証人タルコトヲ得ス

一 地租拾五圓以上又ハ土地ヲ有シ所得稅ヲ納ムルモノ

但移民一人ノ保証人タルコトヲ得

一 地租五拾圓以上又ハ土地ヲ有シ所得稅拾五圓以上納ムルモノ

但移民二人ノ保証人タルコトヲ得

第三條 移民保護法第十三條ニ依リ移民取扱人ニ於テ移民ト書面契約ヲナストキハ本紙ニ通ノ外寫一通ヲ添付シ認可出願スヘシ

第四條 移民取扱人ニ依ル渡航出願者ハ外國渡航願書ニ認可ヲ受ケタル契約書ノ寫一通ヲ添付スヘシ

但市町村長ニ於テ契約本書ト寫トヲ照合シ相違ナキニ於テハ認印ノ上進達スヘシ

第五條 商業又ハ學術研究等ノ爲外國へ渡航セントスルモノハ一人ノ保証人ヲ立テ第一號及第三號書式ニ依リ外國旅券下付願并外國渡航認可願書ニ戶籍ノ謄本ヲ添へ當廳へ差出スヘシ

但第二條但書ノ地方ニ渡航スル者ハ保証人ヲ要セサルモノトス

保證人ハ渡航者ト同一郡市内ニ住居シ左ノ資格ニ該當スルモノトス但一人ニシテ渡航者三人以上ノ保證人タルコトヲ得ス

一地租拾圓以上又ハ土地ヲ有シ所得稅ヲ納ムルモノ

但渡航者一人ノ保證人タルコトヲ得

一地租貳拾五圓以上又ハ土地ヲ有シ所得稅拾圓以上納ムルモノ

但渡航者二人ノ保證人タルコトヲ得

第六條 左ニ列舉セルモノハ外國渡航者ノ保證人タルコトヲ得ス

一 婦女子及無能力者

二 公權剝奪若ハ停止中ノ者

三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ了ヘサル者

了ヘサル者

第七條 家族又ハ未成年者ニシテ外國ニ渡航セントスル者ハ戶主後見人若ハ親權ヲ行フ父母連署スヘシ

母連署スヘシ

在外ノ父母若ハ夫又ハ他人ノ呼寄ニ依リ渡航セントスル者ハ旅券下付願書ニ其ノ呼寄書

(封筒) 添付スヘシ

學術修業ノ爲渡航セントスル者ハ履歷書ヲ添付スヘシ

第八條 婦女子ニシテ父母若クハ夫又ハ子弟ニ從ヒ或ハ在外夫等ノ呼寄ニ依リ渡航セント

スル者ハ各寫眞(父母夫婦等同)ヲ携帶スヘシ

行者ハ合寫

前項ノ寫眞ハ其裏面ニ本人ノ姓名ヲ記入シ市町村長ノ証明ヲ受ケルコトヲ要ス

第九條 寄留者ニシテ旅券下付出願セントスルトキハ全戸寄留滿一ケ年以上ノ者ニ限り寄

留地市町村長ニ於テ與書シ其他ハ寄留地及本籍地ノ市町村此ノ與書ヲ要スルモノトス

第十條 保証人ヨリ差出スヘキ保証書ハ第四號書式ニ依リ之ヲ認メ渡航願又ハ認可願ニ添

付スヘシ

渡航者二人ノ保証セントスル者ハ既ニ保証シタル渡航者ノ族籍氏名及保証シタル年月日

ヲ詳記シ保証書ニ添付スヘシ

第十一條 外國旅券下付願并渡航願書等ハ郡市町村長ニ於テ通常文書進達ノ手續ニ依リ經

由進達シ之ヲ本人又ハ移民取扱人ニ携帶セシムヘカラス

第十二條 旅券及渡航許可書ハ當廳ヨリ順次郡市町村長ヲ經テ本人ニ下付スルモノトス

但特別ノ事情ニ依リ本人又ハ移民取扱人ニ於テ直ニ之ヲ受ケントスルトキハ本人又ハ

本人ノ委任狀ヲ所持スル者ニ對シ之ヲ下付スルコトアルヘシ此手續ニ依ラントスル

者ハ豫メ之ヲ副願スヘシ

第十三條 市町村長ニ於テ旅券ヲ下付スルトキハ旅券手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シ

タル第五號書式ノ領收書証ト引換ヘ該領收証書ハ直ニ當廳ヘ進達スヘシ

第十四條 移民保護法施行細則第二十三條ニ依リ移民取扱人ヨリ渡航者名簿歸國者名簿又

ハ死亡者名簿ヲ當廳ニ届出ツルトキハ正副二通差出スヘシ

第一號書式

外國旅券下附願

私儀何々ノ爲メ某國へ罷越(或ハ往復致)度ニ付旅券御渡方奉願候也

年月日

和歌山縣下何郡(市)町(村)大字番地

士族(平民)職業(農商)戸主(何男)

氏 弟甥 名 印

年月日生  
當何年何ヶ月

本縣知事宛

右ノ通り相違無之候也

年月日

市町村長

氏 名 印

一本人ノ氏名ニハ必ス傍訓(カタカナ)ヲ附スヘシ

第二號書式

外國渡航許可願

私儀今般左ノ事由ニ依リ何國何地へ渡航ノ爲メ外國旅券下附願差出候付渡航御許可被下度  
保証書相添へ家族引受人(戸主)連署此段奉願候也

一、目的、何々

何國何地某ト特約シ一ヶ年(又ハ月日)大約幾許備貸ヲ受ケ或ハ自己ノ働ヲ以テ何々業

ニ從事ス

二、在留年限 何ケ年

何ケ年間ハ何地ニ何ケ年ハ何々國等ヲ旅行ス

三、費用 總額幾圓

本邦何港ヨリ何國何地マテ旅費トシテ幾圓ヲ充テ滞在費トシテ幾圓ヲ充テ非常豫備費

トシテ幾圓ヲ充テ本額ノ如シ

四、徵兵關係 何々

國民兵、豫備役、後備役編入等（検査不合格又ハ抽籤ニテ免除又ハ猶豫セラレタ）

五、犯罪并ニ破産 何々

重罪及破産耻罪又ハ禁錮一ケ年以上ノ刑ヲ受ケタルコトナシ

賭博罪ノ刑ヲ受ケタルコトナシ

破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ身代限リノ處分ヲ受ケタルコトナシ

年月日

住所族籍職業身分（旅券下附願書ニ同シ）

本人

氏

名

印

戸主又ハ家族引受人

氏

名

印

政府ニ對シ保護ノ責務ニ任スル

會社又ハ個人

印

本縣知事宛

本願及添付書記載事項ノ正確并ニ品行方正体格強健ナルコト（且ツ該國條例ニ牴觸セサルコト）ヲ証明ス

年月日

市町村長

氏

名

印

本願ノ趣精査ヲ遂ケ相違ナキコト（及該國條例ニ牴觸セサルコト）ヲ証明ス

郡長

氏

名

印

注意

一、郡長ノ証明ニシテ特ニ事情ノ詳具ヲ要スルモノハ別紙ニ記載スヘシ

二、市町村長証明文中括弧内ノ文字ハ北米合衆國ニ渡航スルモノニ對スル証明ノ例ニシテ郡長ノ分モ亦同シ

三、醫師ノ診斷書ヲ添付スヘキモノハ市町村長ノ証明文中ノ体格強健ノ文字ヲ省クベシ

四、政府ニ對シ保証ノ責務ニ任スヘキ會社ノ取扱ニ依ルモノハ顯文中保証書相添ヘノ文字ヲ省クヘシ

五、清韓兩國并ニ露領西比禮亞東部地方及薩哈噠島へ渡航者ハ顯文中保証書相添ノ五字ヲ省クヘシ

第三號書式

外國渡航認可願

私儀今般何國何地へ渡航ノ爲メ外國旅券下附願差出候付左ニ目的及從來ノ經歷等具申候條渡航御認可相成度保証人ノ保証書相添連署此段奉願候也

一、目的 何々

何國何地何學校ニ入リ何學ヲ修メントス

何國何地ニ赴キ何品ヲ販賣ス(別ニ方法ヲ定メタルモノハ其方法ヲモ記入スヘシ)何々

二、在留年限 何ケ年

何ケ年間ハ何地ニ何ケ年ハ何々國等ヲ旅行ス

三、從來ノ經歷

第一項ノ目的ニ關係アル經歷ハ詳ニ記載スヘシ

四、徵兵關係 何々

第二號書式ニ準ス

五、犯罪并ニ破産 何々

第二號書式ニ準ス

年月日

住所族籍職業身分(旅券下附) 願ニ同シ

本	人	氏	名	印
戶主又ハ家	族引受人	保	証	人
氏	氏	氏	名	印
氏	氏	氏	名	印

本縣知事宛

本書記載事項ノ正確并ニ品行方正体格強健ナルコト(且ツ該國條例ニ牴觸セザルコト)ヲ証



明ス

年月日

市町村長

氏

名

印

本願ノ趣精査ヲ遂ケ相違ナキコト(及該國條例ニ抵觸セザルコト)ヲ証明ス

年月日

郡長

氏

名

印

注意

一、郡長ノ証明ニシテ特ニ事情ノ詳具ヲ要スルモノハ別紙ニ記載スベシ

二、市町村長証明文中括弧内ノ文字ハ北米合衆國ニ渡航スルモノニ對スル証明ノ例ニシテ

郡長ノ分モ亦同シ

三、清韓兩國并露領西比利亞東部地方及薩哈噠島へ渡航者ハ願文中保證書相添ノ六字ヲ省

クヘシ

第四號書式 保證書

一 地租 何圓

一 所得稅何圓

今般某何々ノ爲メ何國何地へ渡航ニ付拙者前記ノ財産ヲ目的トシ保證人ニ相成申候就テハ本人万一疾病其他困難ノ場合ニ於テハ御指揮ニ從ヒ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘキハ勿論官廳ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシメラレタルトキハ其費金ヲ辨償スヘク又拙者ニ於テ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定ムヘク尙ホ此等ニ關シ官廳ヨリ命令セラレトキハ其ノ命令ニ從ヒ責務ヲ盡シ可申候也

追テ從來渡航者ノ保證人ニ相立候事無之候也

(從來渡航者ノ保證人ニ相立候事別紙ノ通ニ有之候也)

年月日

住所

保證人

氏

名

印

本縣知事宛

右取調候處申立ノ通相違無之候也

年月日

市町村長

氏

名

印

注意

一、保證人二人ナルトキハ一人毎ニ保證書ヲ差出スヘシ

第五號書式

五十錢

旅券領取書

一 旅券 第何號

壹葉

収入印紙

但拙者某國へ渡航ノ爲御下附ノ分

右正ニ領収致候也

年月日

住所

本人

氏

名

印

本縣知事宛

○和歌山縣令第五十二號

明治三十年八月和歌山縣令第六十六號ヲ廢止ス

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ施行ス

明治三十三年六月廿九日

和歌山縣知事

小倉

久

和歌山縣令第五十三號參照

明治三十年八月 飲食物及玩具着色料取締規則ノ件  
縣令第六十六號

○告 示

○和歌山縣告示第四百一十一號

東京蠶業講習所及京都蠶業講習所ニ於テ本科傳習生募集ニ付入所志願者ハ左ノ事項承知ノ上願書差出ス可シ

明治三十三年六月廿一日

和歌山縣知事

小倉

久

一各府縣ヲ通シテ募集試験合格者中優等ナル者ヨリ順次二十五名ツ、選抜シ入學許可セラ

ル、  
二願書ハ別紙規則中ニ定メラレタル書式ニ據リ七月十五日限リ所轄町村役場及郡市役所ヲ

經テ差出シ郡市役所ニ於テハ同月廿日マテニ當廳ニ着メベキ様進達スベキヲ

三入學志願者ハ東京及京都蠶業講習所ノ孰レニ入學志願スルモ本人ノ隨意ナルヘシ

傳習規則

第一章

總 則

第一條 本所ノ傳習ハ本科別科ノ二トス

第二條 本科ハ蠶業ニ關スル學理及實地ヲ傳習ス

別科ハ實地ヲ主トシ傍ヲ學理ノ大意ヲ傳習ス

第三條 本科生ノ定員ヲ五拾名トシ別科生ノ定員ヲ六拾名以下トス

第四條 傳習期限ハ本科ヲ貳ケ年トシ別科ヲ五ケ月トス

第五條 傳習生ノ學費ハ自辨トス

但傳習料ヲ徴收セズ

第六條 傳習生ハ總テ所内ニ寄宿スルモノトス

但本所ノ都合ニヨリ通學ヲ命スルコトアル可シ

第二章 學科課程

第七條 本科及別科ノ學科課程左ノ如シ

本科課程

			第 一 年			第 二 年		
	第一期	第二期	第三期	第一期	第二期	第三期		
動物學	動物學	動物學						
植物學	植物學	植物學						
物理學	物理學	物理學						



別科課程

實習						
						普通實習
		繭種檢查	蠶種檢查			普通實習
		繭檢查	繭檢查	夏繭飼育	春繭飼育	普通實習
製絲					蠶體解剖	普通實習
製絲	生絲檢查				蠶體解剖	普通實習
				夏繭飼育	春繭飼育	普通實習

製糸法	養蠶法
製糸法	養蠶法

第八條 本科ノ傳習期ヲ分ツコト左ノ如シ

第三章 傳習期及休業

實習		講義					第一期	第二期
蠶種檢查		顯微鏡使用	製絲法	養蠶法	蠶體病理論	蠶體生理論		
繭及生絲檢查	繭種檢查	春蠶飼育	夏蠶飼育	蠶體解剖				

第一年

第二期 自十月一日 至十二月廿四日

第一期 自一月八日 至四月十五日

第三期 自四月十六日 至秋蠶實習結了

第九條 別科ノ傳習期ヲ分ツコト左ノ如シ

第一期 自三月一日 至四月十五日

第二期 自四月十六日 至夏蠶實習結了

第十條 休業期日左ノ如シ

冬期休業 自十二月廿五日 至翌年一月七日

夏期休業 自秋蠶實習結了 至九月三十日

日 曜 日

大祭祝日

但シ養蠶實習中ハ休業スルコトナシ

第四章 募集入學及在學

第二年

至自 全全 上上

至自 全全 上上

至自 全全 上上

夏蠶實習結了



第十一條 本科生ノ募集試験ハ八月中別科生ノ募集試験ハ一月中地方廳ニ於テ之ヲ執行ス  
第十二條 傳習生志願者ハ左ノ資格ヲ有スルモノタル可シ

本科志願者

一品行方正ニシテ傳習期中家事ノ係累ナキ者

二志願者体格檢査規定ニ合格セル者

三年齡二十一年以上ノ者

四三ヶ年以上養蠶ニ從事シタル者

五尋常中學第三年生相當以上ノ學力ヲ有スル者

別科志願者

一品行方正ニシテ傳習期中家事ノ係累ナキ者

二志願者体格檢査規定ニ合格セル者

三年齡二十五年以上ノ者

四三ヶ年以上養蠶ニ從事シタル者

五高等小學卒業生相當以上ノ學力ヲ有スル者

第十三條 志願者体格檢査規定左ノ如シ

一呼吸器 喉頭氣管氣管枝肺臟肋膜ノ健全ナルモノ

一神經系 腦及末梢神經健全ナルモノ

一血行器 心臟疾患ナキモノ

一運動機

筋骨ノ發育佳良ニシテ勞働ニ堪ユルモノ

一皮膚

健全ナルモノ

一胸圍

常時身長ノ半以上ニシテ盈虛ノ差曲尺二寸以上アルモノ

一色盲

ナキモノ

一眼疾

傳染性疾患殊ニトラホーム其他不治ノ慢性疾患ナキモノ

一聽力

曲尺六尺六寸ノ距離ニ於テ袖珍時辰機ノ音ヲ聽取シ得ルモノ

一耳疾

永久ノ聽力障害ヲ將來スヘキ疾病ナキモノ

一既往疾病

總テ結核性ノ疾患ナキモノ

一現在疾病

傳染性疾患花柳病ハ勿論其他重キ疾病ナキモノ

其他運動ヲ障害スヘキ畸形ナキモノ

第十四條 募集試験ノ科目左ノ如シ

本科

一數學

算術全体及代數學一次方程式迄

二動物學

動物學大意

三植物學

植物學大意

四物理學

物理學大意

五化學

無機化學大意

六作文

假名交リ記事文

七養蠶法

養蠶法全般

別科

一作文 假名交リ記事文

二養蠶法 養蠶法全般

第十五條 本科志願者ハ毎年七月二十日別科志願者ハ十二月十日迄ニ左ノ書式ニ準シ願書

履歷書並ニ體格檢査證各一通ヲ地方廳ニ差出スヘシ

入學願書

某蠶業講習所習ハ別科傳習生志願ニ付御試驗ノ上入學御許可相成度別紙履歷書及體格檢

査証相添ヘ此段相願候也

宿所

本籍族

戸主ナラザレバ  
何某男或ハ弟等

何

某

印

何年何月生

年月日

東京蠶業講習所長某殿

履歷書

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ於テ若クハ何某ニ就キ何學修業

一何年何月何學校ニ於テ第何年ノ課程卒業或ハ全科卒業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所ニ於テ養蠶法ヲ習得シ或ハ何年何月ヨリ何年何月マテ

何所ニ於テ養蠶實業ニ従事

體格檢査証

右精細検査候處農商務省蠶業講習所傳習志願者體格検査規定ニ合格セルモノト診斷候也

住所

本籍族 戶主ナラザレバ  
何某男或ハ弟等

何年何月生

住所

年月日

醫師

何

某

印

第十六條 本料へ入學許可ヲ得タルモノハ左ノ書式ニ準シ在學証書一通ヲ認メ保証人ヨリ  
本所ニ差出スヘシ

在學証書(証書ハ美濃紙ヲ用ヒ貳錢収入印紙貼用)

本籍族 戶主ナラザレバ  
何某男或ハ弟等

何

何年何月生

今般何某人學御許可相成候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申此  
段保証候也

但宿所移轉或ハ印章相改候節ハ速ニ届出可申候也

住所

本籍族

年月日

保証人

何

某

何年何月生

東京  
京都 蠶業講習所長某殿

第十七條 保証人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ於テ一家計ヲ立ツル者又ハ本所ニ於テ適當ト認ムルモノタルベシ

但保証人旅行セントスルトキハ豫メ相當代理者ヲ立テ届出ツヘシ

第十八條 本所ニ於テ保証人又ハ其代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムルコトアルヘシ

第十九條 保証人死去若クハ他府縣ニ轉住スルトキハ直ニ他人ヲ以テ之ニ換ヘ更ニ在學証書ヲ差出スヘシ

### 第五章 進級及卒業

第二十條 試験ハ之ヲ別テ定期及臨時ノ二トス定期試験ハ各期ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ臨時試験ハ主務官ノ見込ニヨリ之ヲ行フ

但シ時宜ニヨリ定期試験ノ期日ハ之ヲ變更スルコトアルヘシ

第二十一條 試験点数ハ本科別科共各課目一百点ヲ以テ最高點トス

第二十二條 本科ニ在リテハ各年第三期ノ終リニ於テ別科ニ在リテハ第二期ノ終リニ於テ左ノ規定ニ據リ及落テ定ム試験ニ合格セナルモノハ何等ノ事故ニ拘ハラズ再試験ヲ受クルコトヲ得ス

總平均点数六十點以上

總平均点数六十點未滿

二課目以上五十點未滿

及 第 第

落 第 第

落 第 第

一課目四十點未滿

落第

第二十三條 本科ニ在リテハ第一年間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ進級セシメ第二年間ニ

於ケル試験ニ及第セル者ヲ卒業セシム落第セル者ハ原級ニ止ム

別科ニ在テハ修業期間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ卒業セシム

第二十四條 試験ニ缺席シタル科目ニハ零點ヲ附ス

但病氣其他止ムヲ得サル事故ニ由リ届出ノ上缺席スル者ハ願ニヨリ特ニ試験ヲ行フコトアル可シ

第六章 懲戒及退學

第二十五條 傳習生諸規則及心得等ニ違反シ若クハ怠惰不品行ナル者ハ其情狀ニヨリテ左

ノ懲戒ニ處ス

一 譴責

二 罰點

三 退學

第二十六條 左ノ各項ノ一ニ該當スルモノハ退學ヲ命ス

一 屢々缺課スル者

二 成業ノ見込ナキ者

三 同級ニ於テ二回落第シタル者

研究科規程

第一條 研究科ハ蠶業講習所卒業生及元農務局蠶業試驗場卒業生ニシテ既修ノ學理實地ヲ

更ニ研究スル者ノ爲メニ之ヲ設ク

第二條 研究生ノ定員ヲ十名トス

第三條 研究ノ期限ハ三ヶ月以上一ケ年以内トス

但主務官ノ見込ニヨリ隨時伸縮セシムルコトアル可シ

第四條 研究生タラント欲スル者ハ研究ノ事項及期限ヲ明記シ履歷書ヲ添附シテ所長ニ願

出ツ可シ所長ハ詮議ノ上之ヲ許可ス

第五條 研究生ノ研究ニ要スル費用ハ器具藥品等ヲ除クノ外總テ自辨トス

第六條 研究生ハ研究セシ事項ニ就キ報告ヲ編成シ滿期後十日以内ニ之ヲ所長ニ差出スヘシ

第七條 研究生在所中ノ經歷及報告ニシテ本所ニ於テ滿足ナリト認ムルトキハ証明書ヲ交

付ス

第八條 研究生ニシテ怠惰不品行ノ爲メ成業ノ見込ナキ者ハ之ヲ除名ス可シ

第九條 研究生中途ニシテ研究ヲ停止セタル者及除名セラレタル者ハ再ヒ研究生タルコト

ヲ得ス

### 傳習生心得

第一條 傳習生ハ總テ所則ヲ遵守シ主務官ノ指揮ニ從ヒ固ク其命令ヲ守ルベシ

第二條 禮節ヲ重ンジ友誼ヲ厚クシ着實勉勵ヲ專一トス可シ

第三條 衣服身體ハ清潔ヲ旨トシ厚ク衛生ニ注意ス可シ

第四條 何等ノ目的ニ依ルモ共同欠課シ又ハ主務官ノ承認ヲ得スシテ會同議決スルヲ許サズ  
第五條 傳習生ハ總テ本所規定ノ制帽ヲ戴クヘシ

但シ制服ノ着用ハ各自ノ隨意トス

第六條 貸與品ハ總テ鄭重ニ取扱フベシ萬一粗漏或ハ不注意ノ爲メ之ヲ毀損シ若クハ紛失

シタルハハ辨償セシム

第七條 教場及置室ニ於テ喫煙ヲナシ大聲ヲ發シ又ハ粗暴ノ舉動アル可カラズ

第八條 所内ノ物品植物等ヲ損傷シ又ハ樂書ヲ爲ス等ノ行爲アル可カラズ

第九條 來訪者アルハ必ス所定ノ應接所ニ於テ面會スベシ

第十條 親戚朋友タリモ主務官ノ許可ナクシテ教場及置室ニ誘引スベカラズ

第十一條 本科各級及別科ニ級長一名ヅトヲ置キ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

但シ級長事故アルハ主務官ヨリ代理者ヲ指定スルコトアルベシ

第十二條 主務官ノ命令又ハ其級ノ意見等ハ級長ヲ以テ傳達又ハ上陳セシムルモノトス

第十三條 止ムヲ得サル事故アリテ通學セントスル者ハ其理由ヲ詳記シ保証人連署ヲ以テ

届出ズベシ

但シ疾病ノ疾ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第十四條 事故アリテ缺課シタルハ當日中ニ其事故ヲ詳記シテ届出ズベシ

第十五條 二日以上欠課セントスルハ豫メ其事由ヲ詳記シ保証人連署ヲ以テ届出ズベシ

但シ疾病ノ疾ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス



第十六條 上達文書ハ総テ級名ヲ肩書シ記名捺印シテ所長ニ宛差出スベシ

傳習生寄宿心得

第一條 火ノ元ヲ慎ミ清潔ヲ旨トシ掃除ヲ怠ルヘカラズ

第二條 火災其他非常ノ事變アル場合ニハ総テ舍監ノ指揮ニ従フベシ

第三條 靜肅ヲ旨トシ凡テ他ノ妨害トナルノ行爲アルヘカラズ

第四條 衣服寢具其他凡テ物品ハ各自之ヲ整理シ散亂セザル様注意スベシ

第五條 寢具卓其他日用器具等ハ凡テ自辨タルベシ

第六條 所有品ハ各自管守スヘキハ勿論ニシテ假令紛失破損等アルモ本所ハ一切其責ニ任

セス

第七條 舍内ノ疊建具其他ヲ毀損シタルハ本人ヨリ辨償セシム本人不分明ナルトキハ同

室總員ヨリ辨償セシム

第八條 賄及其他衛生上注意ノ爲メ本科生ヨリ二名別科生ヨリ一名ノ委員ヲ設ケテ其任ニ

當ラシム

第九條 外出時間ハ左ノ如シ

一 平日ハ終業後ヨリ午後八時迄

一 休日ハ午前七時ヨリ午後十時迄

但時宜ニ依リ伸縮スルコトアルヘシ

第十條 在舍點檢ノ際ニハ各自所定ノ室前ニ整列シ舍監ノ點呼ニ應スベシ

但點檢ハ外出時間後隨時之ヲ行フモノトス

第十一條 時限ニ遅レテ歸舍シタルトキハ其事由ヲ詳記シテ届出ヘシ

但疾病ノ時ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第十二條 外出中疾病事故アリテ外泊シタルトキハ歸舍後直ニ其事由ヲ明記シ保証人連署ヲ以テ届出ツヘシ

但疾病ノ時ハ醫師ノ診斷書ヲ要ス

第十三條 病氣其他ノ爲メ消燈劑ニ於テ臥床セントスル者ハ其旨ヲ舍監ニ顯出許可ヲ受ク

第十四條 舍内ニ於テハ一切音讀高談ヲ禁ス

第十五條 勝負ニ關スル玩具ヲ弄シ小説稗史等ヲ閱覽シ又ハ樂器ヲ弄スヘカラス

第十六條 刀劍、弓銃火藥劇藥其他危險ノ物品ヲ所持スヘカラス

第十七條 舍室ノ割付ハ舍監之ヲ行ヒ自己ノ都合ヲ以テ轉室スルコトヲ許サズ

第十八條 不得止用事ノ外ハ猥リニ他人ノ室ニ立入ルヲ許サズ

第十九條 來訪者アルトキハ應接所ノ外舍内ニ誘引スヘカラス

第二十條 寢食消燈等ノ時限ハ時々ノ揭示ニ依ルヘシ

○和歌山縣告示第四百十二號

本月十二日兵庫縣宍粟郡神戸村ノ内伊和村ニ於テ牡牛一頭炭疽熱ニ罹リ斃死シタル旨通知アリタリ

明治三十三年六月二十二日

和歌山縣知事

小倉

久

○和歌山縣告示第四百十三號

和歌山市十番丁七番地十番地ニ建築中ノ和歌山警察署工事落成ニ付本月二十五日新築廳舎

へ移轉ス

明治三十三年六月廿三日

和歌山縣知事

小倉

久

○和歌山縣告示第四百十四號

三重縣ニ於テ左ノ告示ヲ發シタル旨通知アリタリ

三重縣告示第百一號

靜岡縣ニ於ケル「ベスト」蔓延ノ兆アルニ付本月十八日ヨリ桑名停車場ニ檢疫委員及檢疫

醫ヲ派遣シ、瀟車旅客ニ對シ、診察ヲ爲シ、異狀アル者ニ對シテハ觸診、檢温ヲ行ハシム

明治三十三年六月二十七日

和歌山縣知事

小倉

久

○和歌山縣告示第四百十五號

左記ノ者本日頭記ノ番號ヲ以テ和歌山縣產婆名簿ニ登録ス

明治三十三年六月二十七日

和歌山縣知事

小倉

久

和歌山市西ノ店二十番地寄留

和歌山縣半民

第三百八十號

東

文

つ

明治九年三月生

○和歌山縣告示第四百十六號

本月廿一日兵庫縣三原郡賀集村ノ内賀集村ニ於テ馬一頭炭疽ニ罹リ斃死シタル旨通知アリ  
タリ

明治三十三年六月廿七日

和歌山縣知事 小倉久

○和歌山縣告示第四百十七號

明治三十三年度和歌山縣歳入歳出追加豫算府縣制第六十八條第一號ニ依リ縣參事會ノ議決  
ヲ經左ノ通定ム

明治三十三年六月廿八日

和歌山縣知事 小倉久

明治三十三年度和歌山縣歳入歳出追加豫算

歳入

經常部

第十款

雜

收入

金四百貳拾壹圓五錢貳厘

但郡市收入

第一項

歳出

經常部

第一款

警

察費

金四百貳拾壹圓五錢貳厘

第一項

第二項

俸給及諸給  
應費

金參百六拾八圓拾六錢

金五拾貳圓八拾九錢貳厘



町 村 役 場

明治三十一年十月訓令第三百三十三號恤救ヲ受クル者ノ異動報告手續第二項和歌山市ノ下  
及海草郡ノ各町村ノ八字ヲ削除ス

明治三十三年六月廿六日

和歌山縣知事

小 倉 久

正 誤

明治三十三年六月和歌山縣訓令甲第六十二號第三條第四條中(選舉簿)トアルハ(投票簿)ノ誤

明治三十三年六月和歌山縣訓令甲第七十五號中第三條中社務ニノ下(必要)トアルハ(必要)  
ノ誤

第九條中境内樹ノ下(ニ木)トアルハ(木ニ)ノ誤同條(採伐)トアルハ(伐採)ノ誤

第十四條中其ノ下(都度)トアルハ(都度)ノ誤同條但書中和歌ノ下(山)ノ一字ヲ脱ス

明治三十三年六月廿八日

和 歌 山 縣

明治三十三年七月三日印刷  
明治三十三年七月四日發行

(壹頁代假金)  
(一圓五毛)

和歌山縣

印刷所

和歌山市九番丁九番地  
前川初之助  
和歌山市一番丁十三番地